

奇跡の生育地を守りたい

## 加賀海岸のノハナショウブ (石川県加賀市加賀海岸)

ノハナショウブは、和名が野花菖蒲である。花菖蒲の原種と言う意味。花菖蒲はノハナショウブから品種改良されたとされている。その名残は、花弁中央の黄色い脈。花弁の色は様々だが、黄色の脈だけは変化しないらしい。筆者の地域では、湿った山の斜面に時々見かける程度で、個体数はそんなに多くはない。

ところが、加賀海岸の絶壁の下、台地になった岩の上にノハナショウブが群生するという奇跡の場所があ

る。命綱を頼りに絶壁を降下して、この台地に辿り着くが、海平面から僅か数m。冬の季節風での荒波は、当然この台地を洗う。そんな苛酷な条件のもと、可憐な野の花が命を繋いでいる光景は、何か神々しいものでも見たような感概がある。

温暖化や乱獲で野の花が消えていく昨今、この奇跡の台地の野の花だけは、何とか生延びてほしいと願うばかりである。



大和写真によるノハナショウブ

